

板壁」「黒格子戸」に生まれ変わらせていました。

運営費としては、このプロジェクトに賛同する個人寄付1口千円のほか、大口寄付として企業や商店から大口寄付金1口一万円を募集していますが、企業等には、会のパンフレットにスポンサー広告として掲載するという条件で応募をお願いしています。

須坂景観づくりの会は景観をより良好にすることで、土地への誇りと土地への愛着を生み、住民とそこに訪れる人を楽しませ、心も豊かにすることができるという信念のもとに取組を行うとともに、自分たちの親の世代である「信州須坂町並みの会」（昭和61年11月設立）の活動する背中を見て育ってきました。

そんな20代から30代の若者たちが、次の世代の子どもたちにも同じように「須坂のまち」を愛し、好きになってもらうための仕掛けづくりを行っていることには、本当に学ぶべきことが多くありました。

研修後、2班に分かれて蔵のまち信州須坂観光ガイドの案内による蔵の町並み巡りが行われました。

ふれあい館まゆぐら（国登録有形文化財）は明治期に建てられた三階建てのまゆ蔵を移転・改修したもので、都市計画道路の整備により解体を迫られたこの建物を、製糸業で栄えた須坂の歴史を後世に伝える歴史的に貴重な建築物として曳き家移転を行い、街なみ環境整備事業のまちづくり拠点施設として平成13年4月25日に開館しています。

ふれあい館しらふじ（国登録有形文化財）は明治期に建てられた旧丸田医院の母屋・土蔵・洋館風旧診療棟などを整備し、平成14年4月15日に開館しています。3階建ての土蔵と大壁造りの長屋門は、鬼瓦（恵比寿様・大黒様）

のしつらえや重厚なぼたもち石積み等豪快な造りで、市内の歴史的町並みの中でもひととき目を引く建物となっていました。

須坂クラシック美術館（須坂市指定有形文化財）は明治初期に建てられた元・牧新七（まきしんしち）家の屋敷で、土蔵・長屋門・うわせみに囲まれた母屋やぼたもち石積みの石垣も美しく残っています。母屋には書院窓のある座敷、奥座敷付近の門柱、尺2寸もある冠木、天井も総ケヤキ造りとなっています。江戸時代から藩御用達の呉服商を営んでいたその繁栄ぶりがうかがえます。平成7年8月、須坂クラシック美術館として開館後、横浜市在住の日本画家岡信孝氏より、古民芸や銘仙（伊勢崎銘仙を含む）を中心とした着物のコレクション約2,000点の寄贈を受け、展示を行っています。

参加者からはもう一度ゆっくり須坂のまちを見学したいという声が出るほど、市内のいたるところに魅力的な建造物がたくさんありました。

昼食後、小布施町に移動し、葛飾北斎肉筆画の世界「北斎館」を見学しました。

今回、北斎館では特別展「北斎とその弟子たち」が開かれ、北斎の壮年期から晩年に至る代表作、「菊図」双幅・「富士越龍」をはじめとする肉筆画の名品や二十数名にも及ぶ北斎の弟子たちの個性的な肉筆画や版画・版本等が展覧されていました。

北斎館見学後、自由散策となり各自が小布施の町並みを堪能しました。午後4時に北斎館を出発し、定刻通り、午後6時30分に群馬県立産業技術センターに到着。参加者全員無事に帰路に着くことができました。